
いつしかの自分

コロニー犬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつしかの自分

【著者名】

ゾーノード

【作者名】

コロニー犬

【あらすじ】

ある日の夜、十五夜の月が昇るとき、夢の中で声だけの人と会つた。その日から雅絵は、自分の身や、自分と接する世界が、少しづつ変化することに気づきはじめた。

闇との取引

闇。まったく何もない闇があつた。しかし、その闇は、古い闇のようだった。　・　闇は困っていた。このまま新しい闇が生まれないと、闇は消滅してしまうからだつた。しかし、古い闇は気づかなかつた。その闇が気づかない、奥のそのまた奥に新しく、闇がうまれようとしているのに・。

「…………」
「なんだここ・？・なんか暗い・？・？　自分の手足は見えるのに・？・？・？」

自分の手足・？　周りは闇なのに、なぜだ。？・？・？　そうか、これは夢だ。確かにここに来る前に、疲れていてすぐに寝ちつたんだっけ。　・　・　・　あれ？・？・？　夢の中にしてはよく覚えているよな。　・　・　・　W h y?

「・　・　見つけたぜ・？」

「?！」

いきなり声が聞こえた。まるで頭の中で響くかのようだ。

「・　・　ここに入つてくるとは。　クク。いいだらう。チカラを下さえてやる。」

「なんのことだ・？　お前は誰だ！」

「・　・　直にわかるぞ・？　お前にとつても、オレにとつても、このことは「よい」ことだからな・？」

「どういうことだ。説明しやー。」

「まあそうカツカするな・？・？　また後で会おうぜ。　・　雅絵。」

「！　！　なぜお前が俺の名前を・？」

その時、闇の中から閃光が出てきた。あまりのまぶしさで目をつぶると、光は俺を包み込むように大きくなつていった。

そして、徐々に俺の意識が薄れていった。

つづく・・。

闇との取引（後書き）

こんには。クローネ犬です。念願の小説投稿できてうれしいです。
初心者ですが、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4884d/>

いつしかの自分

2010年11月5日07時30分発行